

「民族には、その民族がその民族であるがぎり、忘れてはならない“大切な記憶”があります。」(『日本の心に目覚める5つの話』松浦光修著)

私たち日本人にとって忘れてはならない“大切な記憶”とは何でしょうか。

大自然の恵みは、私達のいのちを育ててくれます。食事の時、合掌して「いただきます」と言うのは、型にあらわすことで、大自然の恵みへの「感謝の心」を忘れずにすることです。伊勢神宮では、そのような感謝の心を、1500年にわたり、「祈りの型」として守り継いできました。中でも、朝・夕に神様にお食事を捧げ、感謝の心を込めるお祭りは、一日も欠かすことなく行われてきました。嵐の日も、戦争の空襲の最中でも・・・。

それも、毎食、火をおこし、井戸水をくみ、古代そのままに手をかけて調理するのです。1500年という月日を見ると想像を絶する営みですが、それゆえに日本人は、伊勢神宮を心から仰ぎ、忙しい日々の中で心の拠り所としてきたのです。

そのような日々のお祭りが一年のお祭りとなり、20年を節目に行われるのが「式年遷宮」です。20年に一度、お社を建て替える仕組みにより、先人の祈り、伝統技術が途絶えることなく永遠につながっていくのです。お祭りという「型」によってまもられてきた感謝の心。日本人が忘れてはならない心が伊勢神宮にあります。この夏、全国の友と出会い、感動溢れる伊勢神宮の心にふれ、生き甲斐を見つけ、輝く自分を発見していきましょう!

一五〇〇年分の「ありがとう」と「の心」

参加者の声

●日本に、
両親の元に生まれてよかった！
「国を築くために必死に生きてこられた多くの日本人の生き方に学び、自分の存在を肯定できるようになりました。日本に生まれてきたこと、両親の間に生まれてきたことをとてもうれしくおもいます。まほろばの先生、仲間たちに出会えたから気付くことができました。」

(千葉・高3・女子/第23回セミナー)

●先人への感謝の心をもって
生きたい

「国あっての我々です」万世特攻平和祈念館でこの言葉がとても心に残った。自分たちが生きているのも、国があるからでその国も先人が必死にまもってくれたからだと思う。これからも感謝の心をもって生きていきたい。」

(神奈川・高1・男子/第24回セミナー)

保護者からの声

●人生を精一杯生きてほしい
「講義をはじめ同世代の方々との交流を通して、自分の今をしっかりと感じる格好の機会となりました。「人生とは公に尽くすことなのだと思う」息子の感想文の一文を読み、素直にうれしく存じました。今後は息子なりの答えを探し、努力を重ね、実践あるのみです。人生を精一杯生きてほしいと願います。」

(福岡・女性)

第25回夏季中高生セミナー

世界に輝く伊勢神宮の心

—清く明るく素直な心を鏡にしよう—



とき 平成25年8月10日(土)～13日(火)
集合 13時 解散 13時

会場 おおみやサイクリングターミナル
(三重県度会郡大紀町滝原1165-3)

特別講師 新田均氏 (皇學館大学教授)
松浦光修氏 (皇學館大学教授)

参加費 24,000円
(保護者がまほろば教育事業団会員の場合は
23,000円)

後援 三重県教育委員会

主催:NPO法人まほろば教育事業団

〒150-0047
東京都渋谷区神山町24-11-202
TEL 03-3485-6554 FAX 03-6912-1720
メール info@mahoroba-ed.org
ホームページ http://www.mahoroba-ed.org